



△「心臓の病気と心臓手術の体験」講座風景

<6・5高校卒業後を想像して…大学出張講義>

6月5日(金)は、6校時に第1学年を対象にした「性感染症予防教室」、7校時に第2学年を対象にした「薬物乱用防止教室」(いずれも視聴覚室)が行われる中で、第3学年に対しては6・7校時(100分間)の時間帯に大学出張講義が開かれました。当日は、**実際に大学現場で講義を受け持っておられる8人の先生方に、講座を担当していただきました**が、それぞれの教室で興味深いお話を聞くことができました。開講した8講座については、次の通りです。

分野	講師(所属)	テーマ
人文科学	兼清 慎一(山梨県立大学)	SNSはメディアのありようをどう伝えたか
社会科学	丸橋昌太郎(信州大学)	社会から求められる最強の法律学〜一流の公務員、企業人になるためには
教育	東海林麗香(山梨大学)	個の発達と家族関係 対人ストレス対人葛藤のプロセスと対処
理学	鈴木 詔子(新潟大学)	敵か味方か、身体の中の小さなエイリアン
工学	佐藤 哲也(山梨大学)	宇宙に学ぶ新エネルギー材料創生
薬学	根矢 三郎(千葉大学大学院)	人口酸素運搬物質(人工血液)の創製
看護	中澤久美子(山梨大学)	病院における臨床検査の役割と病理診断について
医学	加賀重亜喜(山梨大学)	心臓の病気と心臓手術の体験

7月の進路関係行事

- 1(水) 定期試験時間割発表
- 3(金) 進路講演会③
奨学金説明会
- 8(水) 第2回定期試験
[~10(金)]
- 11(土) 進研記述模試①②③
[③は~12(日)]
- 13(月) 7月18日分代休
- 14(火) 月曜日の40分授業
- 17(金) 進路講演会①②
小論文ガイダンス③
- 18(土) 公開授業③
保護者懇談会③
小論文課外③
- 20(月) 海の日
- 24(金) 終業式、大掃除
全統マーク模試③
[~25(土)]
三者懇談期間①②③
[~31(金)]
- 25(土) 臨海実習 [~27(月)]
- 27(月) 筑波研修 [~28(火)]
夏季課外③ I期
[~29(水)]
登校学習会①②
[~31(金)]
- 28(火) 近畿インターハイ
[~8/20(木)]
びわこ総文祭
[~8/1(土)]

※○数字は学年を示します

ある先生は、講座の導入で大学での学問の在り方について触れ、「大学に入るまでは“成績をどう伸ばすか”が問題視されるが、大学では“正解は何か”より、自分で考え、調べて、自分の考え方を持つこと…、論拠をもって説明できる力…が大切で、“**正解がない**”ことを“**どう考えていくか**”を見つめるところ。」と語ってくださっていました。またある先生は、社会が求める専門力という観点から、必要な素養は「軸足性と実践性、そして学際性」…つまり深い専門性と行動力、幅広い知識…にあると話されていました。

大学というところで…、いわゆる「**学問**」というものにもうすぐ触れようとする**第3学年生徒諸君には、一つ一つがワクワクする話**だったのではないのでしょうか。

本校生徒は本当に良い機会に恵まれていると実感しました。

実はこの時間帯に、用事があった本校を訪れた卒業生(第50期生)と話す機会がありました。県内大学で「看護師」になるために勉強しているこの学生は、在校生が実習をしている姿を見ながら、私に語りかけてくれました。

「**大学に入って周囲の学生と話をしていると、こんな経験を高校のときにしている人なんて滅多にいないんです。南高ってスゴイですね。**」それぞれ、高校生活は一度しかないの、他の高校のことは往々にしてわからないのが当たり前なのでしょうね。南高卒業後に改めてわかること…。それが…、

「南高はスゴイ!!」 …ということなのでしょう。

<第51回緑陽祭が幕を閉じました。3年生は「切り換え」の時期!!>

6月27日(土)・28日(日)、そして29日(月)の3日間にわたって開催された緑陽祭が幕を閉じました。今回で51回目を迎える本校最大かつ最高の伝統行事は、前日までの雨も見事に上がり、一般公開日2日間の来校者は実に3177人(生徒会指導部発表)でした。8日(月)からの19日間…、3週間弱の準備期間には、一言では語りきれない多くの経験があったことと思いますが、全ては最後に「クラス一丸」となるための大切な時間だったことなのでしょう。全校の生徒の皆さん、お疲れさまでした。

ところで、緑陽祭の代休を終えた7月1日(水)は、皆さんにとって「ケジメ」の日にならなければなりません。目前の夏休みに向けて、落ち着いた高校生活を送ることができるように「気持ち」と「生活」を切り換えてください。特に、ほとんどの3年生にとっては、この行事が大きな区切りになるはずです。いよいよ現実味を帯びて「受験生」という3文字が浮き出てくることになるでしょう。

夏休みまであと23日。「夏は入試の天王山」…夏を制する者は「受験を制する」と古くから言われます。確かにこの夏にどれだけ頑張れるかが勝負です。大学受験という人生初の経験に不安は付き物ですが、どうか不安など気にせず、力の限りを尽くす最初の一步を踏み出してください。

<平成28年度大学入試センター試験情報!!>

6月1日に平成28年度大学入試センター試験実施要項が発表されました。受験案内の配付は9月1日(火)、出願期間は9月29日(火)～10月9日(金)になりました。試験日・時間割は右の通りです。

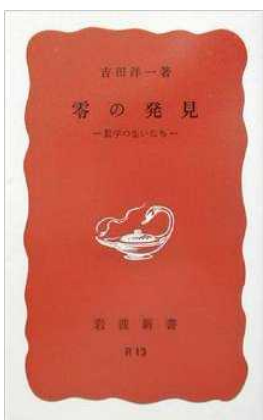
文系の多くは1日目の9:30から2日目の14:40まで、理系の多くは1日目の10:40～18:10、2日目の11:20～17:40(9:30～の場合あり)で受験することになるでしょう。詳細については、また話す機会もあることと思いますが、**2日間にわたる長丁場の試験には、学力もさることながら気力・体力も必要**です。

ぜひ心身ともに健康な自分をつくっていきましょう。

平成28年度大学入試センター試験時間割

1月16日(土)	1月17日(日)
9:30～11:40 地歴公民(2科目受験)	9:30～10:30 理科(基礎科目)
10:40～11:40 地歴公民(1科目受験)	11:20～12:20 数学I・A
13:00～14:20 国語	13:40～14:40 数学II・B
15:10～16:30 英語(筆記)	15:30～17:40 理科(専門2科目受験)
17:10～18:10 英語(リスニング)	16:40～17:40 理科(専門1科目受験)

<南高生に読んでもらいたい一冊>



今回紹介するのは、吉田洋一著『零の発見—数学の生い立ち—』です。**何と初版は1939(昭和14)年…**。その後、数回の再版を重ねた名著です。内容は「零の発見」と「直線を切る」の二章構成で、前半は文系の人にも読みやすいと思います。

「0」が発見される前の話から、名もないインド人が「0」を発見した話、またプラーマグプタという数学者による「0」を用いた計算方法も紹介されています。後半は、数学の内容そのもので「ある円とまったく同じ面積の正方形を、定規とコンパスだけで作ることができるか」がテーマです。有理数やら無理数やらが深く関係する話のようで、根っからの文系人間である私にはちょっと???というところもありますが、数学が苦手な人でも比較的読み進むことはできるはずです。少なくとも「**数学を楽しむ**」ってこういうことかも…と思える一冊です。